

2022下半期 | 9月~3月

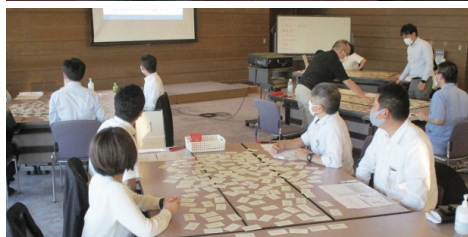
中小企業大学校

四国キャンパス 研修のご案内

中小企業の経営に
特化した研修を四国でも



四国キャンパスについて



中小企業大学校は、業界の枠を超えて、生産性の向上や事業拡大を牽引する中小企業の中核人材を育成する研修施設です。基盤となる経営知識に加え、経営に関する分析力、洞察力、統合力、意思決定力などの経営に必要な能力と専門知識を習得する研修を行っています。

「中小企業大学校四国キャンパス」は、中小企業大学校の研修メニューを通学スタイルで気軽に受講いただくというコンセプトのもと、2019年11月に開校しました。全国で展開する人気コースや四国地域の産業特性などを反映したオリジナル研修などを行っています。

四国キャンパスの特長

1

すぐ役立つ

学びを深めるグループ討論や、自社課題を題材にした解決策の検討など、すぐに役立つカリキュラムです。

2

学びあい

異なる業種や立場の方々との交流によって、新たな発見や刺激が得られ、仕事での視野が広がり、人脈作りにもつながります。

3

通いやすい

高松市をはじめとする四国各地で研修を開催します。また、2日以内の短期研修を中心に展開しています。

※自治体等による受講料の半額助成制度など、さらにお得に受講いただける仕組みがあります。(P5をご参照)

中小企業大学校四国キャンパスでは、受講者の皆様の健康と安全を最優先とし、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しております。皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

「利益は増えたのにお金が減ったのはなぜ?」「儲かった以上の税金はかからないはずなのに、資金繰りが苦しいのはなぜ?」「在庫を増やすな!とよく言われるのはなぜ?」そんなモヤモヤが、「利益」と「お金」の関係性を学ぶことでクリアに! 元金融マンで実務経験豊富な青木講師がわかりやすく解説してくれる講座を、Webデザイナーで中小企業の支援者としても活躍されている竹森まりえさんに体験取材いただきました。「とにかく納得することだらけでした」という、竹森さんの2日間のレポートをお届けします。

1 日目 はP/L(損益計算書)とB/S(貸借対照表)について。「P/Lの見方はわかるけれど、B/Sのほうはよくわからない」という参加者に、青木講師は「言葉の定義」をしっかりと示してくれます。例えば、「資産とは。カネそのもの、カネに換わるもの(カネに換わるものなのに、まだ換わっていないもの)」「負債とは。カネを支払うべきもの」など。よく聞く言葉ですが、「定義」をきくことで、ハッと気づきモヤモヤが晴れることが多々ありました。

「P/Lとは、1年を通じて利益が出たのか損が出たのかを計算する書類のこと」という定義を聞いたあと、P/Lの見方をテキストを使って学びます。青木講師は指標・比率・公式・専門用語がぎっしりと詰まった資料は使わず、口頭でわかりやすく説明しながら、受講者にテキスト内の空欄への記入を促します。ホワイトボードへの板書と青木講師の説明をもとに、私もどんどん記入していきます。

「みなさんの会社でも複数のモノやサービスを売っていると思いますが、どの商品が一番儲かっていて、どれが利益に寄与していないのかはP/Lではわかりません。私が銀行マン時代に上司に言われたことは『分けることはわかること。わかることは分けること』ということ。商品で、事業部でなど、みなさんも分けることから始めましょう」との助言もありました。

続いて、B/Sの言葉の由来や見方の説明を聞いたあと、簡易な事例や実際の企業の3期分までのB/Sを見ていったのですが、後半になると



「言葉の定義」を明確に説明してくれる青木講師



香川、高知、愛媛から21名の参加者

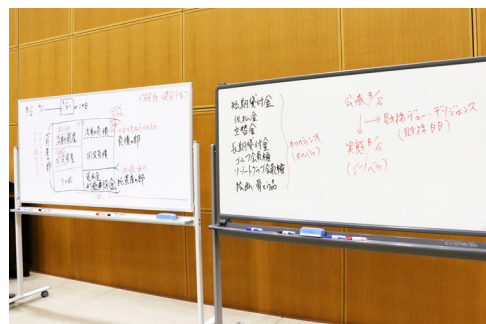
見方に慣れたせいか、「あれ、ここ何だかおかしい」「P/Lも一緒に見てみたけど、なぜこの期にこの数字が下がっているの?」とふとした違和感に気づくようになりました。



参加者が理解し記入しやすく工夫された穴埋め式のテキスト



集中して演習問題に取り組む受講生たち



1日目から2日目への数字つながりが理解しやすい、青木講師のホワイトボードへの板書

はCF(キャッシュフロー)について。「正常」な運転資金の考え方は?短期借入金・長期借入金の正しい理解とは?などここからグッと難しくなった感があり、講師の話を聞き漏らすまいと、必死でメモ。テキスト内の演習問題にも食らいついていく、といった感じでした。周囲を見渡すと、他の受講者の方もものすごい集中力でメモをとっていらっしゃいました。

「キャッシュフローが分かると、何年何ヶ月後にこの会社の経営状態はこうなるといのが分かります」と青木講師。設備更新など後々お金が必

要になることが分かっているのであれば、どれだけ準備したかを銀行は見ているとのこと。また、銀行が企業をどう格付しているのか、わかりやすい説明もありました。

今回、P/Lの数字から始まり、B/Sの数字へ、そしてCFの数字へと「数字をつながながら」説明を聞くことで、「その数字の背景には、こういう数字があった」ということを体系的に学ぶことができたと感じます。数字に苦手意識のあった私にとって目からウロコのこの講座、ぜひいろんな方にお勧めしたいと思いました。

(文=竹森まりえ/Webデザイナー)

受講者インタビュー /

経理面で社長を支える立場にあるので、自社の決算書を3期分見て経営改善を図ってきましたが、その考え方で合っているかどうかを確認するために参加。結果「合っていました!」。学んだ内容を後継者に伝え、共に成長していきたいです。



有限会社平井石産
平井美恵子さん
(石材業・ササカイト製品製造業/香川県)

決算書のことを勉強し始めて3年。だんだん分かってきたタイミングでもあり、今回の講座はすごく腑に落ちました。まずは教えてもらったように部門ごとや会社ごとに「分け」て、さらに5期分の財務推移表をA3で作ってみて、今後のことを考えていきたいです。



明星運輸株式会社 取締役
大野一樹さん
(運送業、製造業/愛媛県)

数字について深いところまで学びたいと今回参加しました。当社では四半期ごとに部門担当者が集まりマネジメント会議を開いているのですが、今回学んだことをベースにすれば、これからの「取組」の根拠をしっかりと伝えていけそうです。



株式会社森の三角ぼうし 支配人
善家典子さん
(販売業/愛媛県)

講師紹介(敬称略)

財務という苦手意識が持たれるこの分野を、分かりやすくは当然のこと、いかに実務に役立てられるか、そして面白く伝えることが出来るかを、大切にしています。指標や比率を多用せず、公式などを使わず、数字で見つけます。ケースを多用し、一連の考え方が自社にどのような形で応用可能なかの、選択肢を提示します。明確な解の存在する問題と、経営者としての価値観の問題を分離して示し、一連の経営課題を財務的見地から紐解くことにより、解に根拠を持たせます。



青木道生(あおき みちお)
アジア太平洋マネジメント 代表

ロサンゼルス、カナダ留学を経て、金融機関勤務。アジア太平洋マネジメント代表。(株)アジア太平洋トレーディング代表取締役。その他複数社の取締役を務める。金融・財務及び企業再生のコンサルタントとして、多くの企業の再生に携わる。中小企業大学校(広島校・直方校・人吉校)講師、全国の商工会議所や行政機関及び上場企業を含む民間企業での講義・講演を多数務める。指標や比率に依存しない決算書の読み方は、初心者にも分かり易いと定評がある。

2022年度開催のご案内

「安心な経営のための資金繰り講座」 ～資金ショートしない健全な会社を築くために～

- 2022年10月20・21日(2日間)
- 高松センタービル 5階 TCB会議室501号室
(香川県高松市寿町2丁目4-20)

(講座の詳細は10ページをご参照ください)

企画担当より

資金繰りは企業の存続に重要なものですが、コロナ禍を受け、その重要性を実感された企業様も多かったのではないのでしょうか。この講座で目指したのは、「財務」への抵抗感がなくなり、「学ぶ」だけではなく腹落ちさせて「使える」知識として持ち帰っていただくこと。受講生には自社の決算書を持参していただき、実際の数字を通して知識を「使えるもの」にできるようにしています。資金調達に苦労していてなかなか案にならない、黒字なのに手元資金がない、という方に特に受講していただきたい講座です。(中村)